

原爆ドーム 存在評価

ユニタール
広島研修終了
遺産管理手法学ぶ

「世界遺産の管理と保
全」をテーマにした国連
訓練調査研究所（UN
ITARR）ユニタール）
広島事務所の第三回研

修は十二日、五日間の
日程を終え、参加者七
人が同事務所がある広
島市中区の広島商工会
議所ビルで記者会見し

た。（36面に関連記事）
研修には、世界遺産が
ある地域で自然・文化遺
産の管理、観光事業に取
り組む専門家ら二十カ国

の三十七人が参加。原爆

ドーム（中区）と厳島神
社（広島県宮島町）も視

察して、議論を深めた。

会見では、講師を務め

た国際記念物遺跡会議

（ICOMOS）遺産コ

ンサルタントのダンカン

・マーシャル氏が「原爆

ドームは兵器がどれだけ
苦痛を与えるかを示すシ

ンボルで、復興を遂げた

周囲の環境が破壊の恐ろ

しさを際立たせている」

と強調。他のメンバーか

らもドームの保存意義を

認める声が相次いだ。

ユニタールは今回の研
修成果をまとめる予定

で、ナスリン・アジミ所

長は「研修で明らかにな

った遺産管理の手法を、

広島県や広島市などにも

還元したい」と述べた。